

## 17 金属床義歯の臨床例 — フィニッシングラインの設定 —

高橋圭太

明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : 金属床義歯, フィニッシングライン

### はじめに

金属床義歯製作におけるフィニッシングラインの設定について、臨床例をもとに報告する。フィニッシングラインの設定で重要視されるのは、金属床とレジン床の界面形態、人工歯排列とレジン床との関係、移行的形態、機能面や装着感への配慮などである。

### 症 例

上顎の金属床義歯（口蓋部を避けたU字型）であり、事情により義歯とフレームの試適と機能診断ができない。何度も再製が可能な環境である。金属は白金加金を使用。

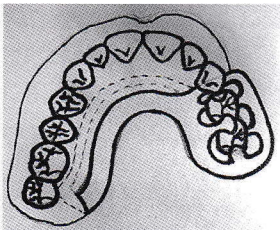


図1 1回目

1回目…フィニッシングライン部に3.2mmのレディキャスティングワックスを使用。総厚さ（金属床＋レジン床）は4.1mmで、人工歯排列、歯肉形成が困難且つ機能面にも支障が出るとみられる形態となった。また、ワックスパターン製作時に削り過ぎてしまい、レジン床移行部の角が丸みを帯びてしまった。

フィニッシングライン下部のアンダーカットが無くなってしまった。

2回目…2.5mmのレディキャスティングワックスを使用。フィニッシングラインの位置を口蓋側へずらした。総厚さは3.4mmと1回目より0.7mm薄く、移行的な形態となり排列にも余裕が出た。しかしレジン床部面積が狭く重量感があったため再製することとした。

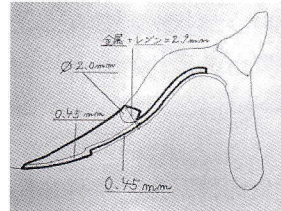


図3 3回目

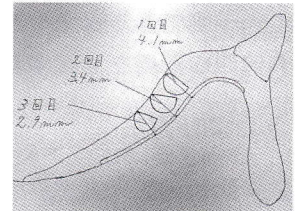


図4 比較

3回目…2mmのレディキャスティングワックスを使用し、総厚さ2.9mmの金属床義歯ができた。フィニッシングラインの位置を口蓋側へさらにずらし、レジン床面積が増えたぶん軽量化された。S字隆起やレジン床から金属床への移行的な形成ができ、機能面、装着感などへの配慮もできた。

（※黒太線は金属床フレーム）

### まとめ

フィニッシングラインの位置や厚みは人工歯排列とレジン床のスペースや顎堤の状態に左右される。また、厚みはフィニッシングラインの長さの影響も受ける。初の金属床義歯製作で初めて白金加金を使用させていただき操作性が優れている事を実感した。反省点は、事情があり試適や機能診断ができなかった点である。医師や患者様の御厚意により何度も再製可能な環境で、より良い金属床義歯の設計を模索する事ができた。